

《原 著》

99mTc-DTPA-HSA リンパシンチグラフィによる 下肢リンパ浮腫の診断： dynamic study と歩行運動併用の意義

小川 洋二* 林 邦昭*

* 長崎大学医学部放射線科

要旨 リンパシンチグラフィにてリンパ浮腫を診断する際の dynamic study と歩行運動の意義を明らかにするために、25 例、50 肢のシンチグラム所見を検討した。検査は ^{99m}Tc-DTPA-HSA を皮下注射して行い、18 例でそけい部の dynamic study を、13 例で 3 分間の足踏みを行った。シンチグラフィ上のリンパ浮腫の診断基準を (1)リンパ管の描出不良、(2)側副路の描出、(3) dermal backflow とすると、sensitivity 90%、specificity 97% が得られ、良好な診断能であった。上記診断基準に、(4) dynamic study におけるリンパ管の描出遅延、を加えると sensitivity は 95% に上昇したが、specificity は 76% に低下した。RI 投与 1 時間後の static 像を上記診断基準 (1), (2), (3) で診断した場合、歩行運動を行わなかつた症例では sensitivity 89%、specificity 67% で、歩行運動を併用すると sensitivity 92%、specificity 100% であった。リンパ浮腫の大部分は static 像のみで診断可能であり、dynamic study では偽陽性があるため注意が必要である。歩行運動の併用は正常のリンパ管を明瞭に描出するのに有用で、positive predictive value を向上させる。

(核医学 36: 31-36, 1999)